

2才児の森のようちえん「トコトコくらぶ」

2026年度17期説明会資料



NPO法人子育て応援かさぐるま * 担当山田
札幌市中央区大通西27丁目1-1 円山バスターミナル2F
090-3117-2294 / 011-676-3387
kazaguruma@oasis.ocn.ne.jp



なぜ、トコトコくらぶを始めたのか？

● 1990年代後半～2000年代

訪問保育等を通して地域の公園から子どもの姿が消え、子どもの自然とのかかわりが減少していると実感

● 2009年 てんてん開始

自立歩行を完了した子どもの経験をさらに広げてやりたいと、保護者は習い事や早期教育を選択

「子どもがアスファルトとコンクリートの上のみで育っている」ことに危惧を抱く。さらに、保育園や幼稚園でも園外保育の機会減少



● 子どもを「自然」の中に返したい！

● 子どもが子どもとして主体的に育つ「時間」を保障したい！

● 「2歳児のブラブラ期の探索行動」を安心・安全な場所で、おとなが寄り添いながら十分に経験させてあげたい

◎ かざぐるまのできることは何か？

子どもの経験&発達を保障する

子どもの冒険&挑戦の機会を作る

トコトコくらぶの特徴

- 円山原生林の四季折々の自然を活用
- 雨の日も風の日も雪の日も遊ぶ
- 2歳児のブラブラ期をおとなも一緒に楽しむ！
- 子どもの経験 & 発達保障、冒険や挑戦の後押し
- 道具を使わずにからだごと遊ぶ
- 12組の親子が1つの大家族のように♪
- 様々な関係性を支援
- 毎回の終了後には振り返りを行い、子どもそれぞれのエピソードを拾いながらひとり一人の成長を確認して次の保育に活かす



かざぐるまのあゆみ

*** 設立40周年 【日本屈指の老舗団体】**

【法人の目的】

この法人は、次世代を担う子どもたちの健やかな成長を育む全ての人々が必要とする情報やサービスの提供、子育て支援のネットワーク推進に関わる事業を行い、全ての子どもが安心して心豊かに育つことが保障される地域社会の実現に寄与することを目的とする。

1986年	任意団体設立
2005年	NPO法人設立。札幌大谷大学子育て支援センター「んぐまーま」運営協力
2007年	WAMこんにちは赤ちゃん！産前産後訪問＆産後サポートネットワーク推進事業
2009年	中央区円山に「子育て拠点てんてん」開設。第1回北海道子育て応援大賞受賞
2010年	円山原生林にて2歳児の森のようちえん「トコトコくらぶ」開始 「第9回全国子育てひろば実践交流セミナーinほっかいどう」運営協力
2018年	身近な地域で活躍する子育て支援者の養成＆スキルアップ講座全12回開催 プレママ＆プレパパや赤ちゃんを育てる親子のための子育て応援ブック発行
2019年	子育て支援者さらなるスキルアップ講座～子どものころとからだの発達への見方・接し方・保護者への伝え方全3回開催
2020年	親が子どもとの生活や遊びをイメージできる動画100本の作成と連動する0・1・2・3歳児を育てる親子のための子育て応援ブック（第2版）発行
2021年	よみうり子育て応援団大賞受賞、子育て応援ブック解説＆活用法研修
2022年	子育て家庭の孤立を防ぐ！相談機能強化オンライン講座全6回開催
2023年	「子育て拠点てんてん」円山バスターミナル転居。トコトコくらぶ森集合解散
2024年	子育て支援ころとからだ基礎コース12講座。子育て応援ブック第3版発行
2025年	子育て応援ブックの解体新書開催、
2026年	任意団体設立40周年

かざぐるまの活動

* 地域の課題解決に向けて事業化

① 集会の会場や利用者宅などでの保育や子育て支援事業	訪問して行う	訪問保育	産前産後サポート	グループ保育
	てんてん&円山の森で行う	預かり保育 (てんてんでの一時保育)	2才児の森のようちえん 「トコトコくらぶ」	
② 子育て中の親子や様々な人が交流するつどいの広場事業		札幌市地域子育て支援拠点 ひろば型指定 「子育て拠点てんてん」	札幌大谷短期大学 子育て支援センター 「んぐまーま」運営協力	
③ 子どもが育つ環境や文化の調査研究及び推進・啓発事業		子育て応援ブックの解体新書 (支援者向研修会主催)	てんてん寺子屋学習会 (保護者向)	
④ 子育て支援に関わる研修事業およびネットワーク推進事業		自治体や他団体との連携 * 道主催研修企画から協力	講師派遣 & 出前講座	
⑤ 子育て・子育てに関わる情報収集と提供及び相談事業		HP・LINE公式アカウント Facebook・Instagram 子育て通信発行	プレママ&プレパパや赤ちゃんを育てる親子のための 「子育て応援ブック第3版」	子育て応援動画 107本

子どものこころとからだの発達の捉え & かかわり方を家庭と共有

発行日：2024年9月25日

発行：[NPO法人子育て応援かざぐるま](#)

監修：川田 学・加藤静恵

執筆：山田智子・川田 学・加藤静恵

挿絵：田中 藍

頒布価格：500円（2026年度550円・手渡し500円）

目次：子どもを育てるということ・赤ちゃんを迎える準備&環境づくり・赤ちゃんとのかかわり方・現代人のからだの変化・赤ちゃんのからだの発達・赤ちゃんの基本の姿勢・新生児期の赤ちゃんのお世話のポイント・抱っこの基本・赤ちゃんが安心する寝床&おくるみ・様々な目的の抱っこ・移動のための抱っこ・アイコンタクト・赤ちゃんの発達を促すふれあい遊び・生活の流れ～1歳を過ぎたら・食べる・眠る・排泄・あそぶ・自然とのふれあい・乳幼児とスマホ・タブレットの付き合い方・わらべうたと絵本・パパたちの「いま」を考える＊0・1・2・3歳の育ちの道のり





目的

価値観が多様化する中で子どもや子育てを取り巻く環境は大きく変化し、少子化の進行や地域の人間関係の希薄化などにより、子どもが子どもとして様々な人に見守られながら豊かな子ども時代を過ごして主体的に成長することが難しい状況となっている。

そこで、家庭で育つ満2才児を対象に、円山公園原生林を活用して週1回2-3時間、定期的に親と離れて保育者や友だちと一緒に過ごす機会を作り、集団生活や四季折々の自然とのふれあいを通して個々の子どもの心身の成長を促し、子どもの自立心や社会性を含めた“生きる力”を育てることを目的として「トコトコくらぶ」を開催する。

保護者にとっても子どもと離れて自分の時間を持つことで子育てに余裕が生まれ、他の親子とのふれ合いを通して自分の子どもだけでなく、みんなの子どもをみんなで育てようという気運が高まる。

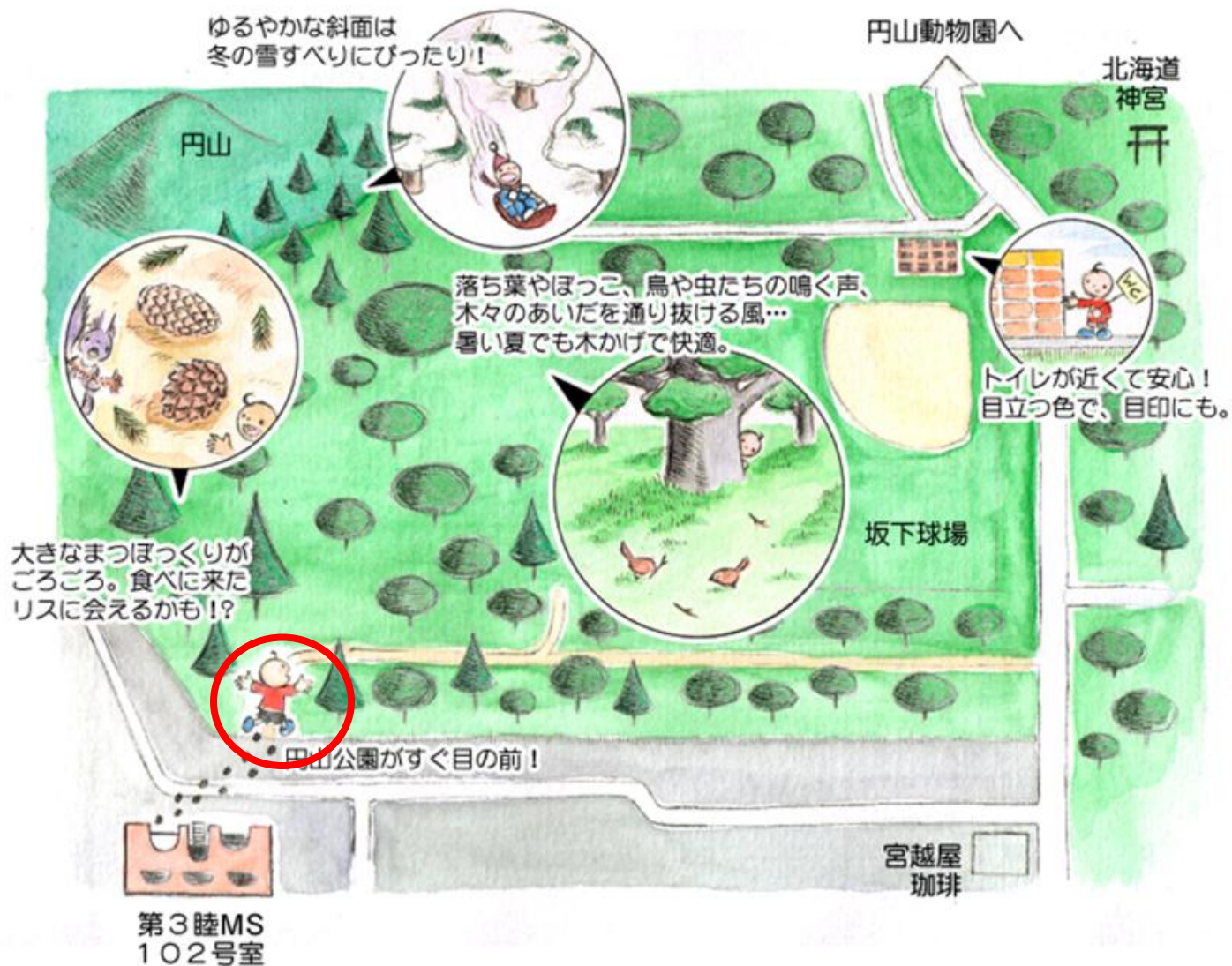


概要

- **活動** 週1回年間40回 4月 10-12時／5月連休明け～10月末 10-13時／11～3月 10-12時
- **対象** 2023年4月2日～2024年4月1日に生まれた子ども12人×火・水・金曜日3クラス
- **場所** 円山原生林・円山動物園 ＊急な荒天時の避難先：子育て拠点てんてん・円山動物園
- **保育** かざぐるまスタッフ（保育士等有資格）子3人に対して1人（子9→保3・子12→保4）
- **保育内容**
 - ✓親子で現地集合→朝の会（わらべうた・挨拶・出席確認・絵本）→保護者退場→森の散策→（午後保育：手洗い→森でおにぎり・絵本→折返し）→帰りの会（報告・挨拶）→解散
 - ✓季節や天候に合わせて円山原生林を散策～自分の足でしっかり歩く、走る、またぐ、くぐる、転がる、両手を付き身体を支えてよじ上る、下る、寝転ぶ、両足飛び、滑る、掘る、植物・虫・泥・雨・雪と親しむ等
 - ✓自分の身の回りのことを自分でやろうとし、少しずつできるようになる（基本的生活習慣の自立）～帽子靴着脱・石鹸手洗い・食事準備・自食・片付け・鼻かみ・トイレ排泄
 - ✓入会式、親子遠足、雪遊び、懇談、成長を祝う会等の親子交流会年8回（保護者も装備必要）

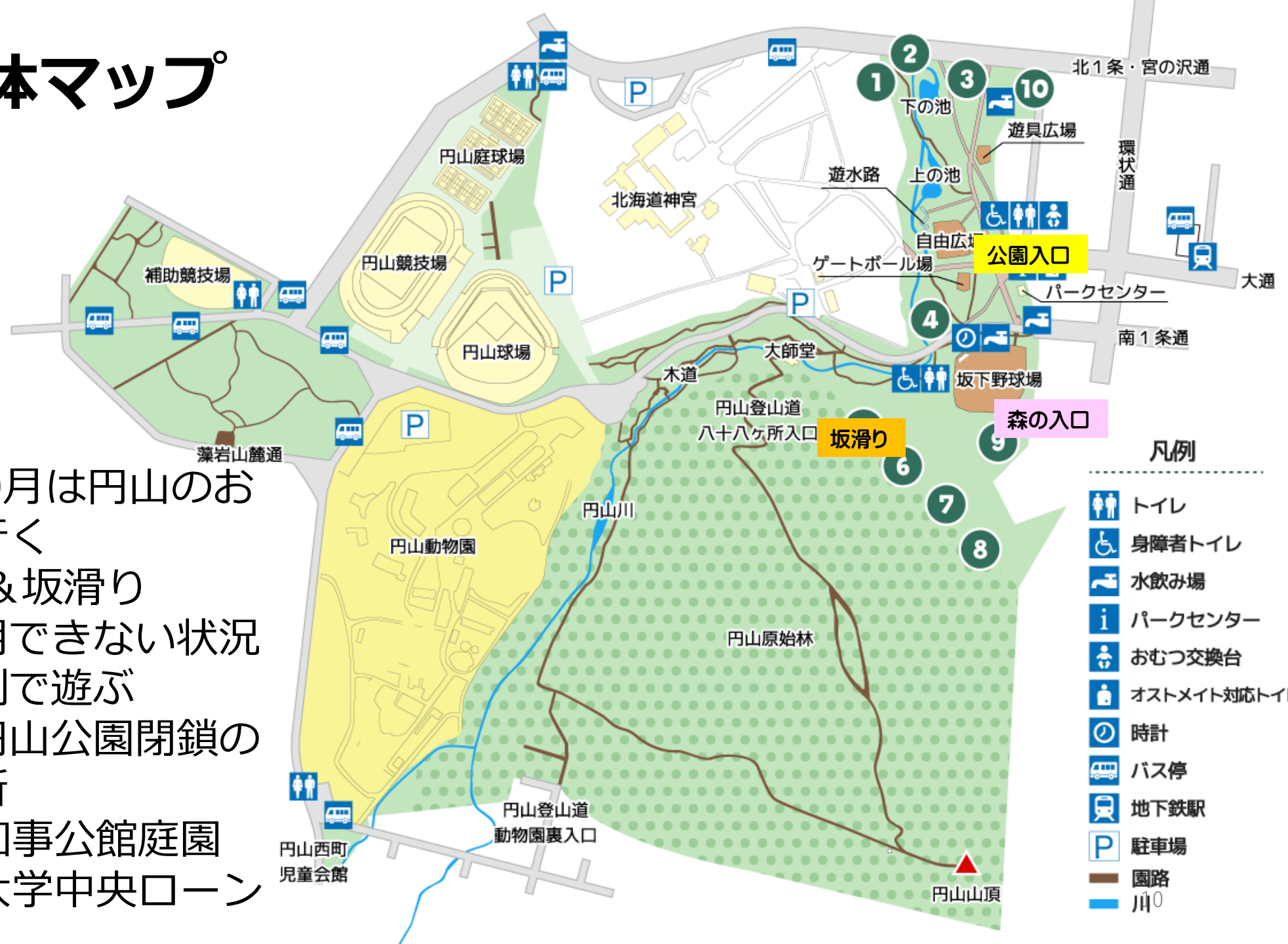
トコトコくらの活動場所

森の入口★集合＆解散

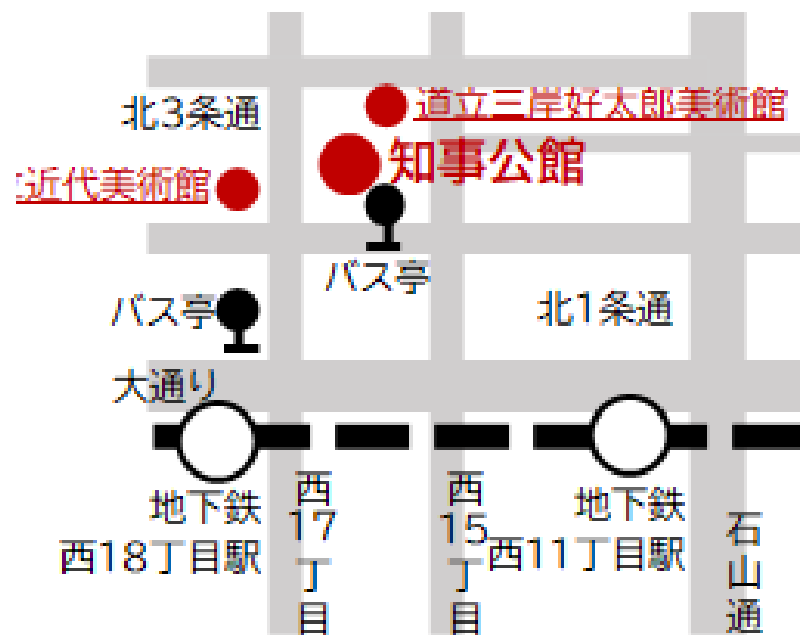


円山公園全体マップ

- ❑ 9月は動物園、10月は円山のお地蔵さん巡りに行く
 - ❑ 12-3月は雪遊び&坂滑り
 - ❑ 円山原生林が使用できない状況の時、円山公園側で遊ぶ
 - ❑ ヒグマ出没等で円山公園閉鎖の時の代替活動場所
- 4~11月 北海道知事公館庭園
12~3月 北海道大学中央ローン

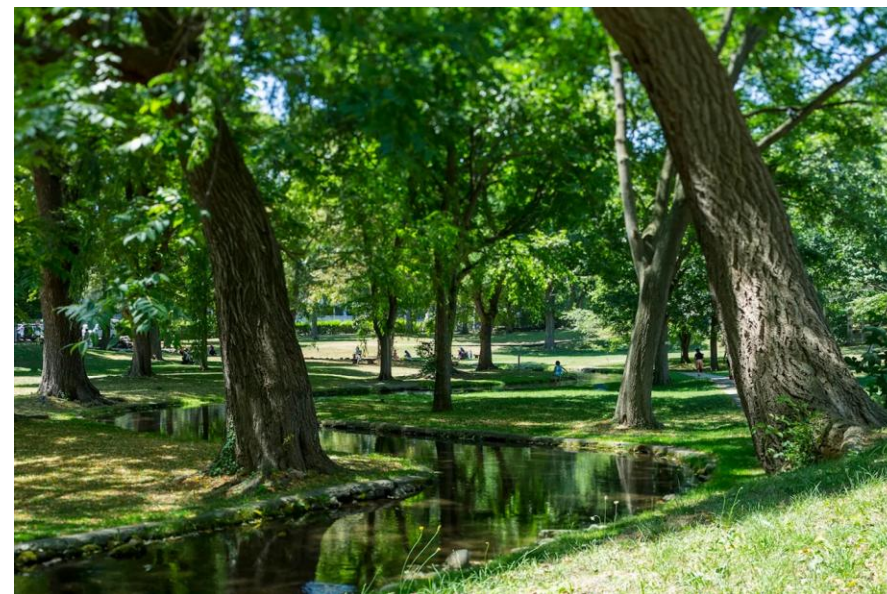


【4-11月】知事公館庭園 北1西16



円山公園閉鎖の際の代替活動場所

【12-3月】北大中央ローン北8西5





子ども像

- 自然を愛する子ども
- じょうぶでしなやかな体の子ども
- 自分の気持ちを安心して表現できる子ども
- 自ら考え自発的に行動できる子ども
- 友だちと一緒に楽しく過ごせる子ども





保育の目標

- 子どもが子どもとして豊かに育つ時間を大切にする
- あたたかな雰囲気の中で子どもの情緒の安定を図る
- 子ども一人ひとりの発達過程を考慮した保育を行う
- 四季折々の自然とのふれあいを通して五感を育む
- 友だちや保育者とのふれあいを通して、基本的信頼感や自己の主体性を育む
- 保護者ととともに子どもの成長を見守る





1日の流れ

4月・11～3月 10～12時／5月連休明け～10月末 10～13時

時 間	活 動	主な内容
9:50～10:00	親子で森の入口集合	視診・連絡帳確認
10:00～10:10	朝の会	わらべうた・朝の挨拶・出欠確認・絵本の読み聞かせ
10:10～11:55	森の散策	森の散策・四季折々の自然とのふれあい・遊びながら戻る
11:55～12:00	森の入口で帰りの会	保護者報告・わらべうた・帰りの挨拶
11:55～12:55	昼食	手洗い・昼食準備・昼食・片付け・遊びながら戻る
12:55～13:00	森の入口で帰りの会	保護者報告・わらべうた・帰りの挨拶



2026年度開催予定日および親子交流会日程

月	火曜日クラス	水曜日クラス	金曜日クラス
4月	14日入会式・21日・28日	15日入会式・22日	17日入会式・24日
5月	12日・19日・26日	13日・20日・27日	8日・15日・22日・29日
6月	2日・9日親子・16日・23日・30日	3日・10日親子・17日・24日	5日・12日親子・19日・26日
7月	7日・14日・21日親子 ⑭	1日・8日・15日・22日親子 ⑬	3日・10日・17日親子 ⑬
8月	18日・25日	19日・26日	21日・28日
9月	1日・8日・15日親子・29日	2日・9日・16日親子・30日	4日・11日・18日親子・25日
10月	6日・13日・20日・27日親子	7日・14日・21日・28日親子	2日・9日・16日・23日・30日親子
11月	10日・17日・24日	4日・11日・18日・25日	6日・13日・20日・27日
12月	1日・8日・15日・22日親子 ⑰	3日・10日・17日親子 ⑱	5日・12日・19日親子 ⑱
1月	19日・26日	20日・27日	22日・29日
2月	2日親子・9日・16日	3日親子・10日・17日・24日	5日親子・12日・19日・26日
3月	2日・9日・16日・23日成長を祝う会⑨	4日・11日・18日成長を祝う会 ⑨	5日・12日・19日成長を祝う会 ⑨
合計	40回	40回	15 40回



各期のねらいおよび毎月のテーマ

期	各期のねらい	毎月のテーマ
1期 4～6月	新しい環境（保育者・友だち・場所）に慣れ、好きな遊びを見つけて遊ぼう	4月 これからよろしくね
		5月 お母さんはいないけど歩くの楽しい
		6月 上ったり下りたり
2期 7～9月	いろいろな素材（土・草花・木・木の実・葉・水など）の感触を楽しもう	7月 草花も虫も友だち
		8月 泥んこ遊び
		9月 動物園まで歩こう
3期 10～12月	秋から冬にかけての季節の移り変わりを感じて遊ぼう	10月 お地蔵さん巡りで秋の彩りを感じよう
		11月 晩秋の森を楽しもう
		12月 初冬の森を楽しもう・もうすぐお正月
4期 1～3月	友だちと一緒に冬の自然や遊びを楽しもう	1月 雪と戯れる
		2月 雪は友だち
		3月 みんなで大きくなったね
全期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分でやりたいという気持ちと過程を大切にする ○ 生活や遊びの中で、保育者や友だちと言葉のやり取りを楽しむ ○ じょうぶでしなやかな体を作り、基本的な生活習慣を身につける 	



四季折々の森での出会いと活動

季節	円山の森で出会うもの	子どもたちの活動
春 4~6月	松ぼっくり・胡桃の殻・おおうばゆり芽・山こぶし えぞえんごさく・えんれいそう・にりんそう ふきのとう・きばなのあまな・たんぽぽ・きのこ ディジー・山牛蒡・桂・おおはなうど・笹新芽 蟻・わらし虫・かたつむり・なめくじ・虫の卵・鳩・鳥 蝦夷春蟬・蟬抜け殻・だんご虫・蚊・えぞりす	しっかり歩く・拾う・転がす・座る・しゃがむ・くぐる 斜面上り下り(お尻に力)・思い切り走る・両足跳び 両手をついてよじ登る・倒木に跨る・枝を揺らす 花摘み・電車ごっこ・かくれんぼ・隠れて待つ・探す ヤッホーと叫ぶ・友だちの名前を呼ぶ・返事をする 葉っぱを川に流す・葉っぱの傘をさす
夏 7~8月	雨水・水溜り・泥・とんぼ・みみず・おにやんま・蟬 足長蜘蛛・青大将・シジユウカラ・ゴジユウカラ おおばこ・つゆ草・水引草・くるみ・銀杏・桂の実 べびいちご・おおうばゆり花・蝮草・木の皮・枝 蟬・腐葉土の山・くわがた・かぶと虫・カナヘビ	へび苺摘み・棒で穴を掘る・泥んこ遊び・団子作り ぬかるみを歩く・水溜りを漕いで歩く・虫にさわる みみず探し・腐葉土の山遊び・かぶと虫探し 倒木電車・おおばこ糸取り&相撲・倒木平均台 全力で走る・両足踏切ジャンプ
秋 9~11月	動物園の動物・オシドリ・松ぼっくり・きのこ・枝 木のうろ・紅葉・落ち葉・円山八十八か所地藏 落葉絨毯・おおはなうど・プラタナス・胡桃 楓実・銀杏・山ぶどう・どんぐり・霜柱・薄氷・カモ	動物園往復2~3km歩く・円山八十八か所巡り 落ち葉を捕まえる・集める・かけ合う・埋める・崖上り おおはなうどシャワー・プロペラ飛ばし・葉っぱお面 きのこ採り・木登り・崖上り下り・薄氷霜柱集め
冬 12~3月	雪(堅雪・さらさら雪・ぼたん雪・ざらめ雪など) 霜柱・薄氷・氷のかけら・つらら 雪表層・雪の結晶・動物や人の足跡 雪解け水・根開き(木の周りの雪解け) 銀杏・松の枝・ななかまどの実・冬芽	雪を握り固める・雪玉を投げる・寝転ぶ・転がる 雪玉を転がし大きくする・雪だるま作り・雪塊並べ 温泉や乗り物を作る・足型・人型・天使の羽・埋める 尻滑り・腹滑り・つながり滑り・ロケット滑り・坂上り 穴掘り・雪のケーキトンネル作り・雪合戦



大事にしていること

- 森に放牧～イヤイヤ期でなく「ブラブラ期」と捉える
- 赤ちゃん時代卒業。「してあげる」から「（自分で）させてあげる」へ
- 「自分でやりたい」を育てる
- 保育者≠先生。名前呼び。遊び仲間、感動を共有する人、葛藤に寄り添う人
- 父性的なかかわり～新しい世界への挑戦の水先案内人
- 子どもの自発性を大事にし、先取り、先回り、余計なお世話はしない
- ひとり一人の発達過程や個性をふまえてかかわる
- 結果より気持ちとプロセスを大切に
- しなやかでしっかりした体育で～独歩、坂ののぼりおり、両手で体を支え爪先を使って上る
- 基本的生活習慣（食事・排泄・着脱衣・清潔等）の自立と並行して進める
- やりやすくセットして、お手本を示してやり方を具体的に伝え、できない所のみ手伝う
- 物の取り合い＝お互いの子どもの育ち合いの機会～貸して・いいかい・まだ使ってるよ
- 主張すべき時は自己主張＋相手の気持ちにも気づく・葛藤する・抑制できる～バランス大事



料金

●初回費用（申込み受付時）

2026年度利用会員年会費2,000円＋トコトコくらぶ登録料3,000円＋夏用帽子代1,100円＋子育て応援ブック500円＝**6,600円**（記名した封筒に丁度の金額を用意）

●毎月の保育料

月額13,000円（諸経費・保険料等含む）を、前月末日までゆうちょ銀行指定口座にお振込みください。週2回参加は25,000円。3月保育料で中止の返金を調整します。

●振込先

ゆうちょ銀行 店名：九〇八（キューゼロハチ） 店番：908 口座番号：2962514

預金種目：普通預金 口座名義：特非）子育て応援かざぐるま

●悪天候等の中止の対応

1回当たり2,500円返金予定



用意するもの

*** 持物 & 衣類全てに大きくはっきり記名を！**

- **アウトドア用合羽上下**：雨風に耐えられるもの * 3月・10月モンベル幹旋
- **ゴム長靴**：夏用 & 冬用 * ブーツは水が浸みる、爪先が曲がらず坂を上りづらい
- **夏用短靴**：サイズが合い、マジックテープで調整可能、厚底で踵がしっかりしているもの
- **チェストベルト付きリュック**：おむつ1枚・ハンドタオル・弁当袋・水筒・合羽を入れる
- **軽量ねじ式水筒**：ストロー×、ボトルに直接口をつけて飲む。常温でよい。300ml
- **ハンドタオル**：手拭き用。リュックのサイドポケットに入る大きさ
- **濡れおしぼり & ケース**：百均のファスナー付ケースが出し入れしやすくお勧め
- **巾着式弁当袋**：ラップで巻いたおにぎり1個 & おしぼりケースが入る大きさ。紐2本で絞る
- **記名したおむつ1枚をビニール袋に入れたもの**：おむつ卒業後はパンツ・ズボン・靴下各1枚)
- **服装**：長袖・長ズボン（ウエスト総ゴム・伸縮素材）・カラー帽子 * 毎回同じ服で○
- **ハープ系防虫スプレー**：ハッカ等。5～10月毎朝出掛けにかけてくる
- **冬装備**：スノーウエア・帽子・手袋（積雪前ニット・積雪後スキー手袋）・ネックウォーマー・スノーカバー・毛糸靴下・ハイネック・フリースなど





申込受付～今後の流れ

●申込書

必要事項を明記。家族の顔写真（L版）を、申込書裏面中央部にテープで貼る

●初期費用

「利用会員年会費2000円＋トコトコくらぶ登録料3000円＋帽子代1100円＋応援ブック500円＝**6600円**」を記名した封筒に入れ、申込書に添えて申込む。

＊3月に転勤で参加できなくなった場合は登録料と帽子代を返金。自己都合は帽子代のみ返金

●受付

一応本日意思確認。**12/22(月)10時より受付開始**。ひろばで過ごししながら、来場順に事務室にて受付。その後、てんてんひろばで定員になるまで受付。希望曜日確認＆調整可能性あり

●連絡 kazaguruma@oasis.ocn.ne.jpからメール。クラス毎ML（gmail登録）またはLINE

●親子面談 3月下旬＋4月初め 1組20分予定 ＊帰省等の予定がある方は事前に要連絡

●その他 出産・入院等止むを得ない事情で1か月全欠は保育料半額免除。自己都合は全額納入



入会に向けてのお願い

- 週1回のトコトコくらぶだけの外遊びとならぬように、家庭での外遊びと連動させてください
 - 自然の中で遊ぶので擦り傷、打撲、虫刺され、ダニ付着等はあることとご理解ください
 - 保護者が「してあげる」から子ども自身に「させてあげる」に、かかわり方を進化しましょう
 - 抱っこやベビーカーは卒業に向け、自分の足でしっかり歩く。年齢×kmは歩行可能とのこと
 - 今冬は親子共に温かく身支度して毎日散歩や雪遊びを！春以降もつき合ってあげてください
 - てんてんに週1回は来場して場や人に慣れ、自然な雰囲気の中で他児と一緒に過ごす経験を
 - 食事は両足を床に付けた状態で座り、手掴みやスプーンで自分で食べる方向に向けましょう
 - 子どもが自分で身の回りのことができるようになるように、できない部分のみ手伝いしましょう
- 例：座った状態で身体を屈曲させて靴下やズボンに片足ずつ入れて立って両手で持ち上げる
最初は大人の膝の上に座らせ二人羽織りのように行くと、手元が見えてわかりやすい
おむつ交換後のパンツ型おむつを自分ではなく、靴下・ズボン・シャツなどを自分で着脱
- kazaguruma@oasis.ocn.ne.jpからのメールを携帯で受信できるように設定してください²⁴！

こどもともし ～ トコトコくらぶに寄せて

川田 学さん （北海道大学子ども発達臨床研究センター教授・かざぐるま理事）

●発達の日と出来事の日

人間の発達は、竹の節のように、育ち折々に節目をつくっていく過程だと考えられます。発達の日は、はやいおそいの差はあれ、だいたいその順序性において共通性があります。また、発達は部分的なものではなく、様々な側面が凸凹したり、まとまりをみせたりと、アンバランスとバランスを繰り返す、波のような過程です。いっぽうで、子どもの育ちのなかには、具体的でかけがえのない、出来事の数々があります。たった一度の出来事をくぐっただけで、子どもの姿が変わって見えること、また子ども自身から見える世界が変わってくることがあるように思います。ですから、一人の人間を生かしているのは、抽象的な発達の知識ではなく、具体的な出来事の実験であるということが、やはりだいじな視点になってくるのではないのでしょうか。

●こどもともし

自然環境は、子どもに出来事をたくさんくれます。思いますに、それは繰り返しのなかで発見があるからではないかと。森には四季があり、人間の統制外のサイクルで、子どもの五感に変化を伝えます。子どもはそれを掴み、また受け止めながら、外界と自分との関係についてのセンスを、その子なりに育てる。幼い人たちにとって、いろんな環境をぶらぶらと歩いていく経験は、かけがえのないものです。それは彼女らの心の動きに合っているようです。とくに、現代社会の1-3歳頃の子どものにとって、「ぶらぶら」は得難い経験だと思います。彼らは、イヤイヤ期ではなく、ぶらぶら期なのです。トコトコくらぶは、この年齢にふさわしい活動様式をふまえつつ、発達と出来事と季節の日のなかで、子どもたちの育ちあいを支える取り組みだと思います。そして、子どもたちの育ちあいと重なって、大人たちの育ちあいも生まれているようです。

2歳児の森のようちえんトコトコくらぶに寄せて

加藤静恵さん(小児科医) 札幌病院／医療福祉センター札幌あゆみの園

私は発達外来を担当して20年以上になります。発達性協調運動障害の子どもに対してのリハビリテーション処方として、感覚統合療法主体の作業療法を介して関わっております。対象は、小児精神科で自閉スペクトラム症(旧:自閉症・広汎性発達障害・アスペルガー症候群など)、精神遅滞、注意欠如多動症(旧:注意欠陥多動性障害)などの診断を受けた子ども達で、姿勢保持・バランス・運動の苦手さ、不器用さなどの問題を抱える幼児や小・中学生です。

私は、その子ども達には共通して「原始反射の残存」と「眼球運動の問題」が認められている点に注目しております。「原始反射は生後から出現し乳児期に消失する」と医学や保育の教科書に書かれていますが、残存のアセスメントは作業療法分野等で行われております。寝返り移動や動物這い・四つ這いを十分に経験することで原始反射は抑制され、姿勢を保持するための体幹筋力が付き、転んでも手が出て(保護伸展反応)顔や頭を守る力がつきます。特にモロー反射(上肢と下肢の連合反応)が残存する子どもは、全ての感覚に過敏に反応し、注意集中や視知覚・眼球運動・前庭感覚・バランス感覚・協調運動・学習や身体機能(パフォーマンス)の問題を抱えています。

子どもたちを取り巻く生活環境の変化も大きく関わっております。以前はどの家にもあった畳部屋は、今では減少しています。畳部屋だと頭を多少打ってもゴロゴロ寝返り移動が安全にできますが、硬い床に絨毯を敷きつめた部屋ではそれが難しい状況です。また、畳の縁の上を歩くことによって、バランス感覚が養われるが、絨毯の上ではその機会は減少します。排尿便毎にしゃがんでいた和式トイレは、風前の灯火です。公園にあった箱ブランコ・シーソー・グローブジャングル(回転する球体のジャングルジム)も、デパートの屋上などにあった子ども遊園地の、メリーゴーランド・コーヒーカップ・揺れ遊具などが姿を消しています。こうして子ども達の遊ぶ場が消えていくことは、視知覚を含む発達全般に、大きな影を落としております。札幌は市内の道路はほぼ舗装され、幼児でもベビーカーに乗り、幼稚園や保育園の送迎は園バスや保護者の車のことが多く、小学校入学まで、“歩く”機会は限られています。

森の小径はしっかり腿を上げ、不安定な足元を見ながら、足首・膝・股関節でバランスをとり、転びそうになりながらも、しゃがんだり・くぐったりして、上肢下肢/左右の分離・協調運動を学ぶ絶好の機会です。原生林の空気を深呼吸しながら歌を歌いながら歩くことで呼吸筋も強化され明瞭な発声や鼻呼吸の獲得に繋がります。地方も少子化の影響でスクールバスでの送迎が増えているためか、北海道の子どもたちの体力は全国平均を大きく下回っています。虫の嫌いな保護者も多く、森での活動が身体作りに大きく貢献することは間違いございません。